

2013年3月期 決算説明会



2013年5月28日



株式会社アドバネクス

本資料は2013年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

主な内容

1. 2013年3月期決算の概要
2. 2014年3月期通期見通し
3. 今後の事業方針

1. 2013年3月期決算の概要

1-1 2013年3月期連結業績概要

(単位:百万円)

	2012年3月期 通 期	2013年3月期 通 期	前年同期増減	
			額	率
売上高	25,191	23,551	△1,640	△6.5%
売上総利益	5,341	4,798	△543	△10.2%
営業利益	612	426	△185	△30.3%
%	2.4%	1.8%	(△0.6%)	—
経常利益	470	542	72	15.4%
当期純利益	226	478	251	111.2%

1-2 通期連結業績のポイント

◆売上高は減少。円安により経常利益が増加。

売上高減少の要因は、ヒンジ事業の縮小と精密ばね事業におけるOA機器向け・PC関連機器向けの売上減少。営業利益は前期に比べ減少したが、円安により為替差益が発生したことから、経常利益は前期より増加。タイ工場の保険金収入による特別利益により、最終利益は111%増加。

◆精密ばね事業、プラスチック事業とも国内売上が減少

両事業とも国内が減収・減益。ヒンジ事業の損失額が大幅に縮小したものの、連結営業利益は前期に比べ30.3%減少。

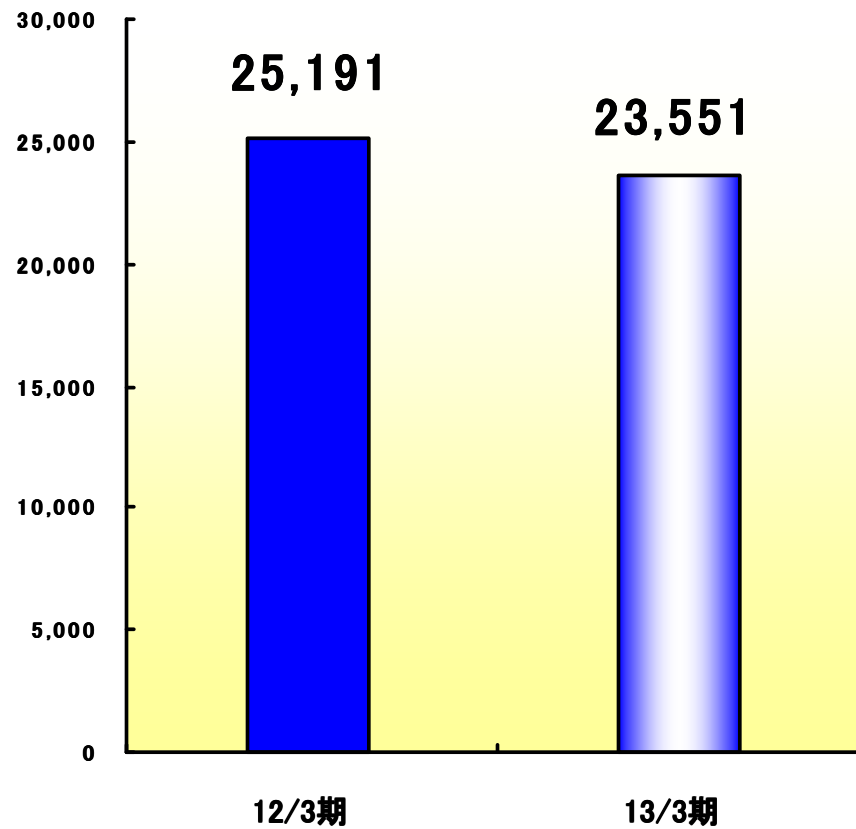
◆自動車向け売上高が増加

国内、海外ともに自動車向けの売上高が前期よりも伸長。海外では、タイやベトナムの伸びが大きかった。

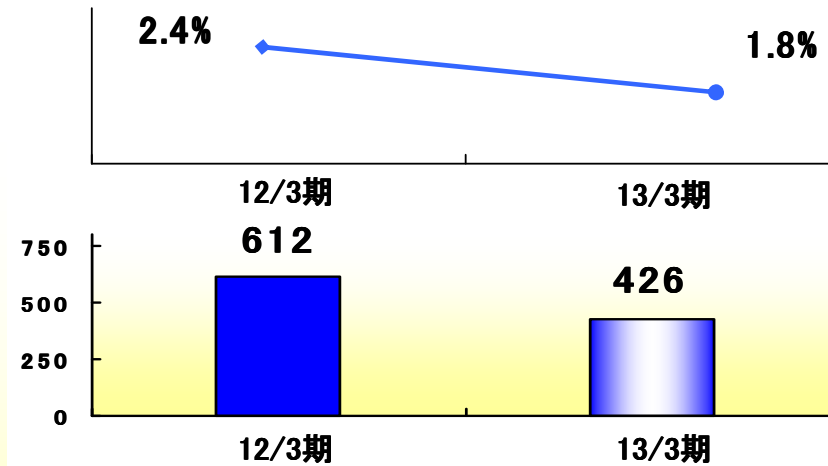
1-3 通期業績推移(連結)

売上高

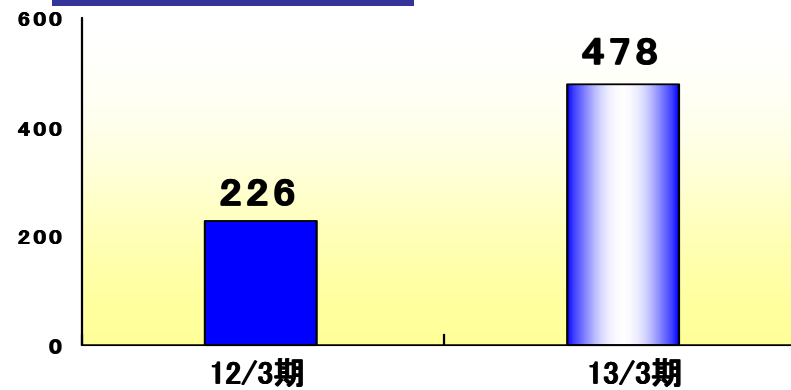
(単位:百万円)



営業利益・利益率

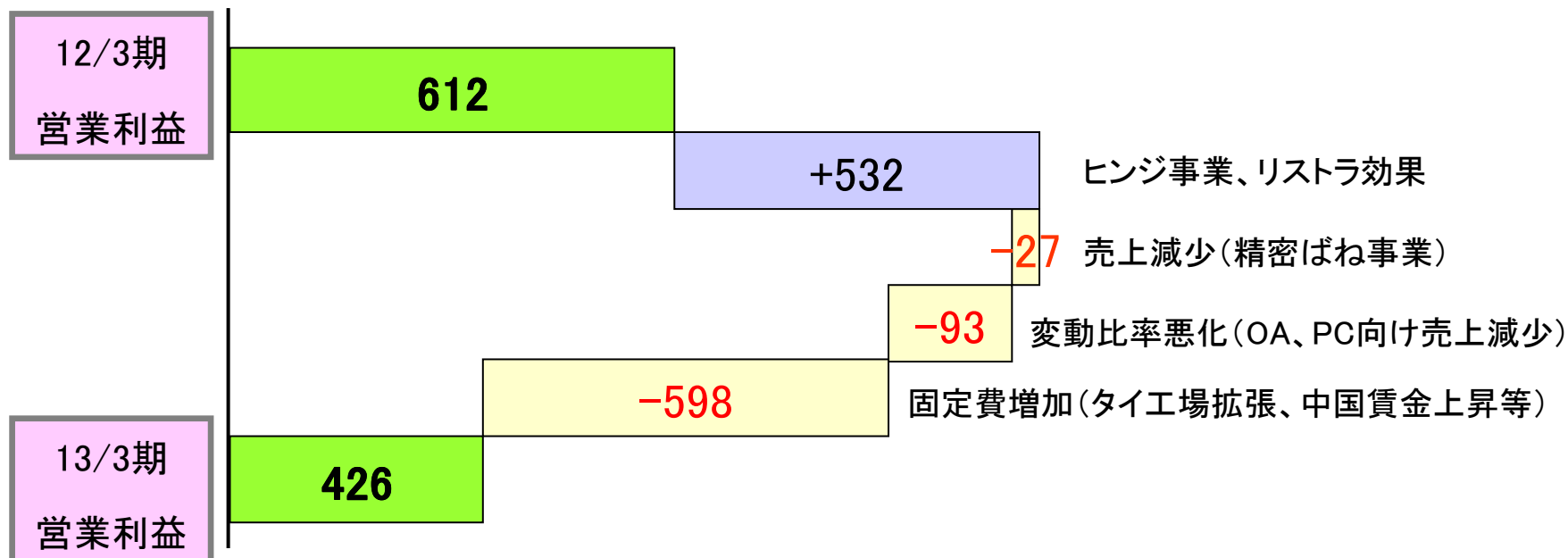


当期純利益



1-4 営業利益差異分析(連結)

(単位: 百万円)



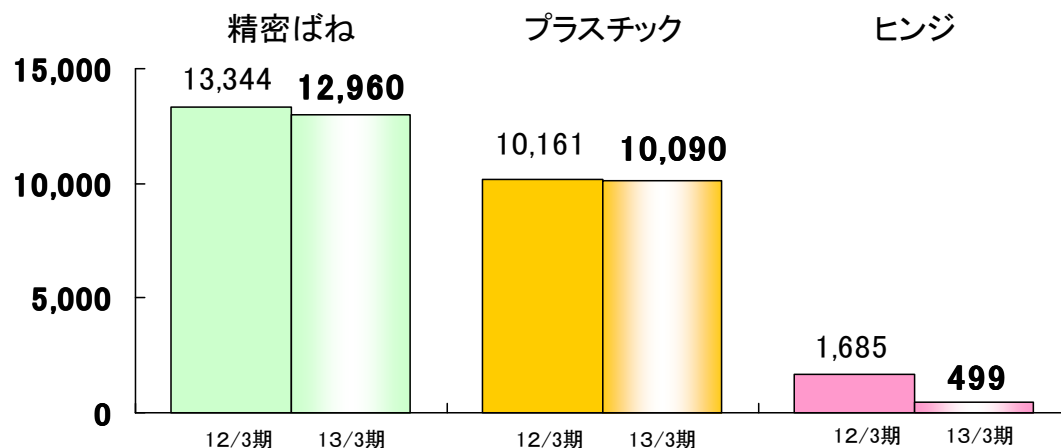
前期に比べ、営業利益は186百万円減少。ヒンジ事業の縮小に伴いリストラ効果が出たが、国内精密ばね事業の売上減少と収益性の高いOA機器向け、PC関連機器向けの売上構成比の低下に加え、タイの第2工場新設や中国の人件費上昇に伴い固定費が増加した影響が大きかった。

1-5 事業別売上高・セグメント利益

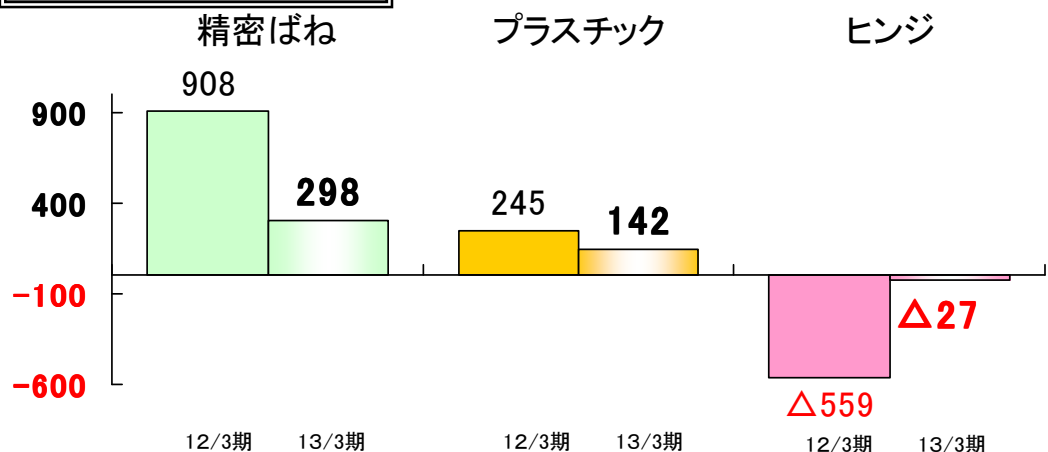
売上高

(単位:百万円)

<前期からの変動要因>



セグメント利益



精密ばね

- ・国内は自動車向けの売上が増加したものの、収益性の高いOA機器・PC関連向けの売上が減少。
- ・海外は、タイの売上が回復したものの、人件費等のコスト増加から利益は減少。英国は医療向けの売上減少により減益。

<売上: △ 2.9%、セグメント利益: 609百万円減少>

プラスチック

- ・自動車向けの売上が国内やベトナムで増加したものの、国内のOA機器向け等の売上が減少。
- ・国内および中国で、賞与や賃上げ等に伴い人件費が増加したため、利益率が低下。

<売上: △0.7%、セグメント利益: 102百万円減少>

ヒンジ

- ・携帯電話向け事業の縮小とPC向け事業の売却に伴い、売上が減少。
- ・製品価格の値上げや人件費等の固定費削減により、損失額が大幅に縮小。

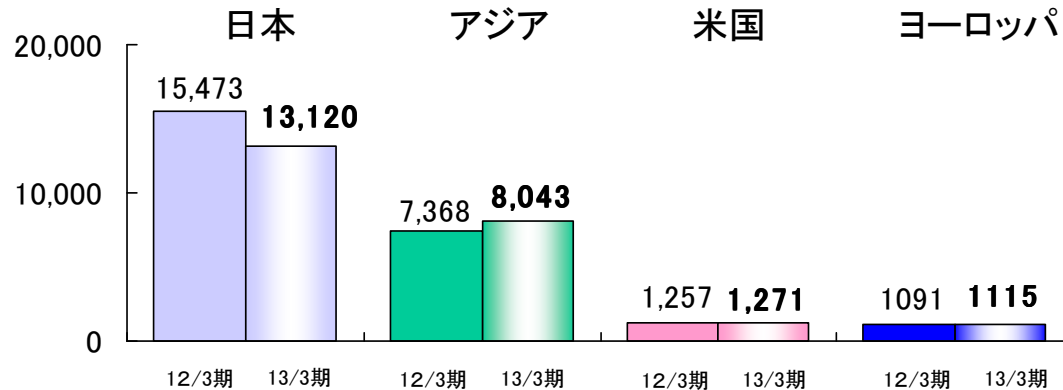
<売上: △70.3%、セグメント損失: 532百万円減少>

1-6 所在地別売上高・セグメント利益

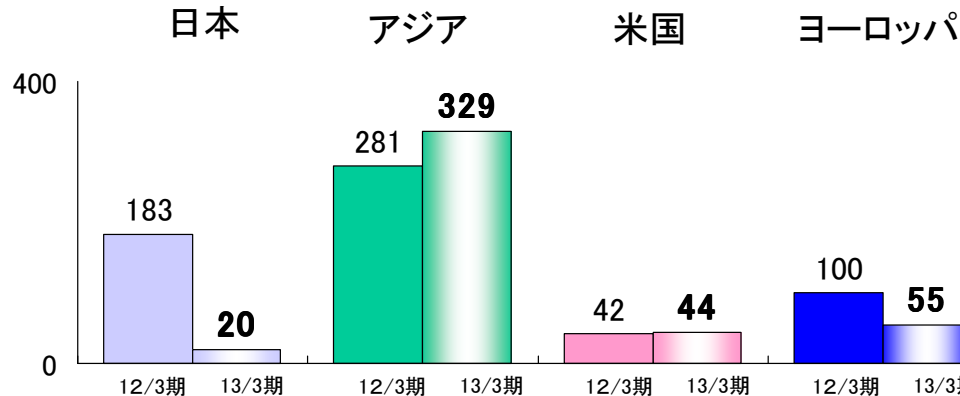
売上高

(単位:百万円)

<前期からの変動要因>



セグメント利益



日本

- ・ヒンジ事業の売上減少および精密ばね事業とプラスチック事業においてOA機器向けやPC関連機器向け等の売上が減少。
- ・ヒンジ事業の縮小に伴い損失が減少したものの、精密ばね事業が赤字。

<売上: Δ 15.2%、セグメント利益: 162百万円減少>

海外

- ・欧州は医療機器向けの売上減少により減益。
- ・アジアではタイの売上が回復、ベトナム等でも自動車向けの売上が伸び、利益が増加。

<売上: +7.3%、セグメント利益: 5百万円増加>

1-7 連結市場別売上高

(単位: 百万円)

	12年3月期		13年3月期		増減	
	通期	構成比	通期	構成比	額	増減率
OA機器	7,245	28.8%	6,802	28.9%	△443	△6.1%
自動車機器	6,869	27.3%	8,010	34.0%	1,141	16.6%
PC・周辺機器	1,816	7.2%	850	3.6%	△996	△53.2%
携帯情報端末	1,232	4.9%	767	3.3%	△465	△37.7%
AV・家電機器	1,262	5.0%	1,293	5.5%	31	2.5%
精密機器	1,484	5.9%	1,273	5.4%	△211	△14.2%
医療機器	793	3.1%	767	3.3%	△26	△3.3%
住設機器	1,934	7.7%	1,456	6.2%	△478	△24.7%
その他	2,556	10.1%	2,327	9.8%	△229	△9.0%
合計	25,191	100.0%	23,551	100.0%	△1,640	△6.5%

2. 2014年3月期通期見通し

2-1 2014年3月期業績予想について

■売上高の回復に伴い、営業利益が増加

精密ばね事業とプラスチック事業において、自動車向けの売上が国内および海外で増加することや、OA機器向けの売上高も下期に国内が回復する見込みであることから、売上高は前期比11.7%の増加。これに伴い、営業利益は前期比63.9%の増加。

■経常利益と当期純利益は減少

前期に計上したタイの保険金収入による特別利益がなくなることや、為替変動の影響を除外したため、経常利益と当期純利益は前期より減少する予想。

為替の前提は1米ドル90円とした。(1円の円安で約35百万円の経常利益押上げ効果)

■配当は1株当たり50銭増加の1.50円に引上げ

2-2 2014年3月期通期業績予想(連結)

(単位: 百万円)

	13年3月期(実績)		14年3月期(予想)		第2四半期増減		通期増減	
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	額	率	額	率
売上高	12,054	23,551	12,900	26,300	846	7.0%	2,749	11.7%
営業利益	242	426	290	700	48	19.7%	274	63.9%
営業利益率	2.0%	1.8%	2.2%	2.7%	0.2%	—	0.9%	—
経常利益	95	542	150	430	55	57.0%	△112	△20.7%
当期純利益	127	478	40	200	△87	△68.7%	△278	△58.2%

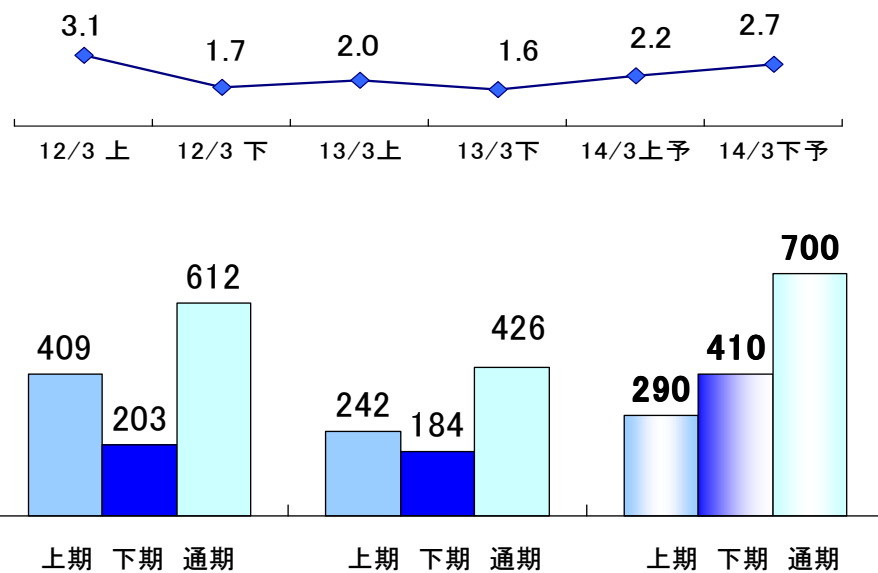
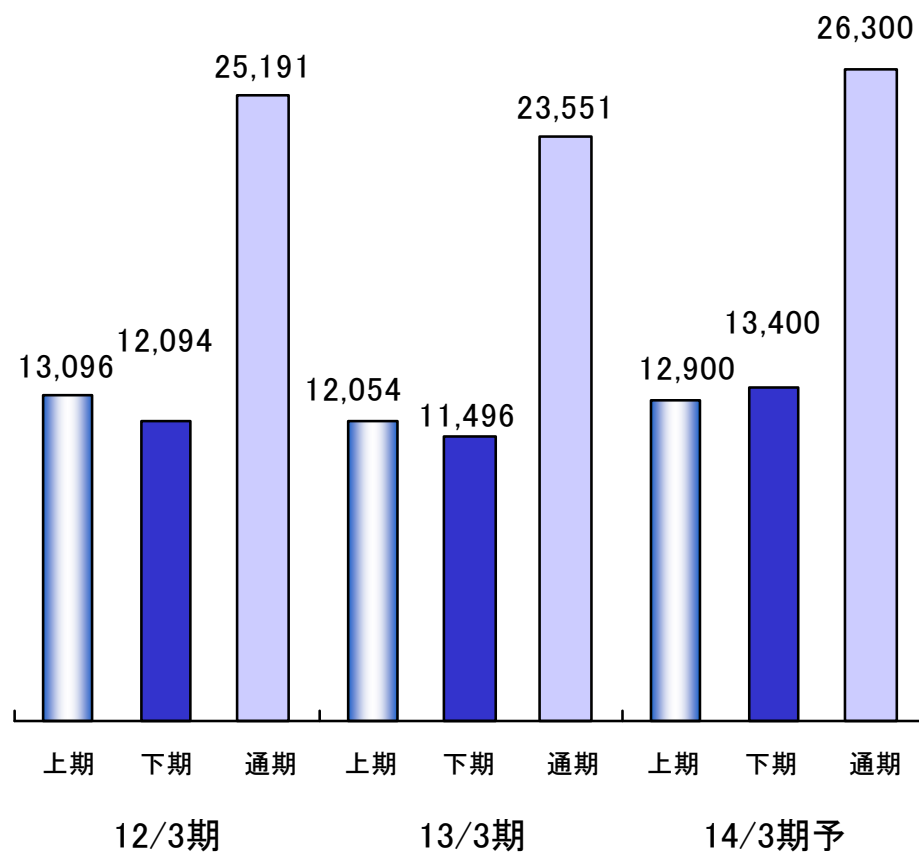
2-3 業績推移(連結)

売上高

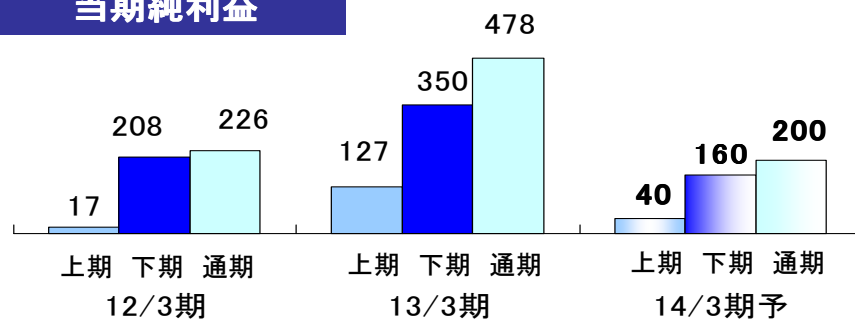
(単位: 百万円)

営業利益・利益率

(%)



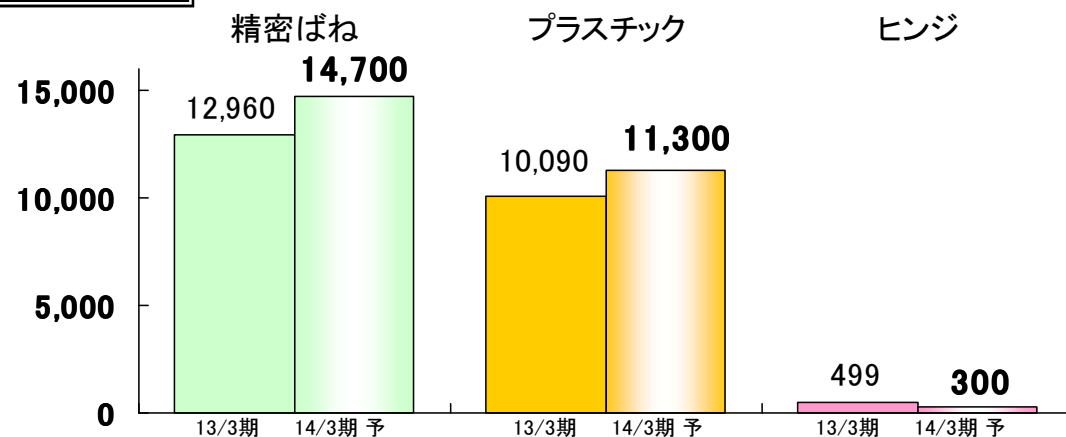
当期純利益



2-4 事業別売上高・セグメント利益の予想

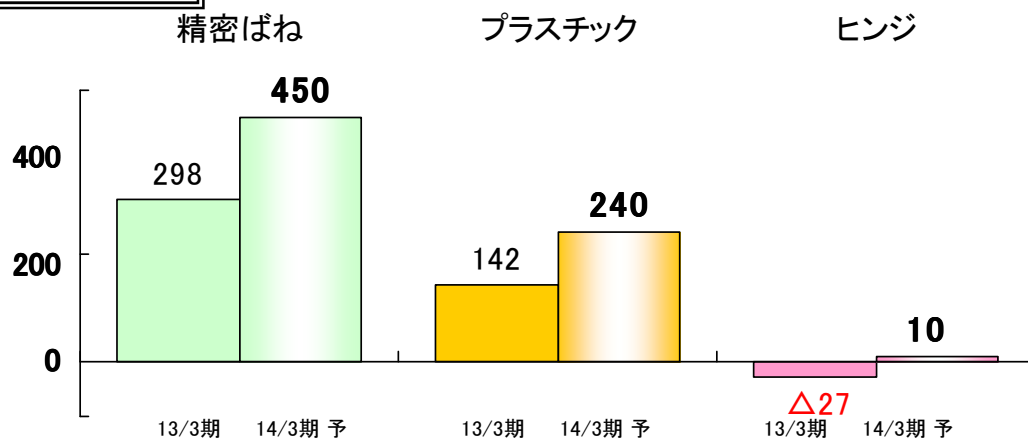
売上高

(単位:百万円)



精密ばね事業、プラスチック事業とも、自動車向けが国内外で伸長。OA機器向けも下期に回復を見込む。ヒンジ事業は、製品終息により、売上減少。

セグメント利益



精密ばね事業は、売上増加に伴い利益が増加。プラスチック事業は中国とアジアで利益増加。ヒンジ事業は、固定費削減が進み、損失解消。

3. 今後の事業方針

3-1 中期ビジネスプラン

中期目標： 売上成長率 10%/年の継続

営業利益率 10%の達成

(2018/3期：連結売上高400億円、営業利益40億円目標)

アドバネクスグループのグローバル展開プラン



3-2 中期事業方針(1)

精密ばね事業

(1) グローバル展開の推進

- アジア： 中国常州工場の稼動(本年7月予定)、タイ・ベトナム拡張
シンガポール子会社によるインド・インドネシア新規進出
- ヨーロッパ： 英国子会社による中欧・東欧新規進出
- アメリカ： 米国子会社による全米展開(ネット販売強化)、
メキシコ工場拡張と中南米新規進出

(2) 国内ビジネスの強化

- ・国内ビジネスカンパニー制による事業責任明確化と意思決定迅速化
- ・営業組織の変更によるエリア営業強化と新規顧客開拓
- ・規格品ビジネスの開始と売上増加 → グローバル展開
(今年度1億円、3年後に国内売上高の10%目標)

(3) M&Aによる事業拡大

国内外で精密ばねメーカーを買収、製品・顧客・市場の多角化と売上増加

(参考)規格品ビジネス～オリジナルシリーズご紹介



タンダレス・インサート



コイルスレッド-R



タモント



ダンパー



上:ヘキサトルク 下:シュアトルク



ホールドタイプ

3-2 中期事業方針(2)

プラスチック事業

海外事業強化と収益増加

- ・自動車向け販売強化
- ・OA機器向けは国内売上高減少を海外でカバー
- ・日系重点顧客向けグローバルセールス拡大
マレーシア(AV家電メーカー)、ベトナム(自動車部品メーカー)
中国(自動車部品、OA機器メーカー)

国内事業の深耕

- ・重点市場、重点顧客の絞込み
自動車、OA機器、住宅関連設備の大手顧客にフォーカス
- ・高付加価値商品の開発強化
自動車向け高性能ギヤユニット(舵角センサー向け)、高機能便座ユニット、セラミック製(フェルール)光通信コネクタ部品等
- ・精密ばね事業との連携強化による受注拡大(超精密インサート成形)

3-3 経営体制の変更

社長交代による若返りと会長・社長の二人三脚による 経営強化

加藤雄一
代表取締役会長
Chairman & CEO
1950年2月生まれ(63歳)
[主業務]
グループ未来戦略



柴野恒雄
代表取締役社長
President & COO
1960年1月生まれ(53歳)
[主業務]
短期・中期の事業執行



就任予定日
2013年6月20日



ADVANEX

(お問い合わせ先)

**株式会社アドバネクス
広報IR室**

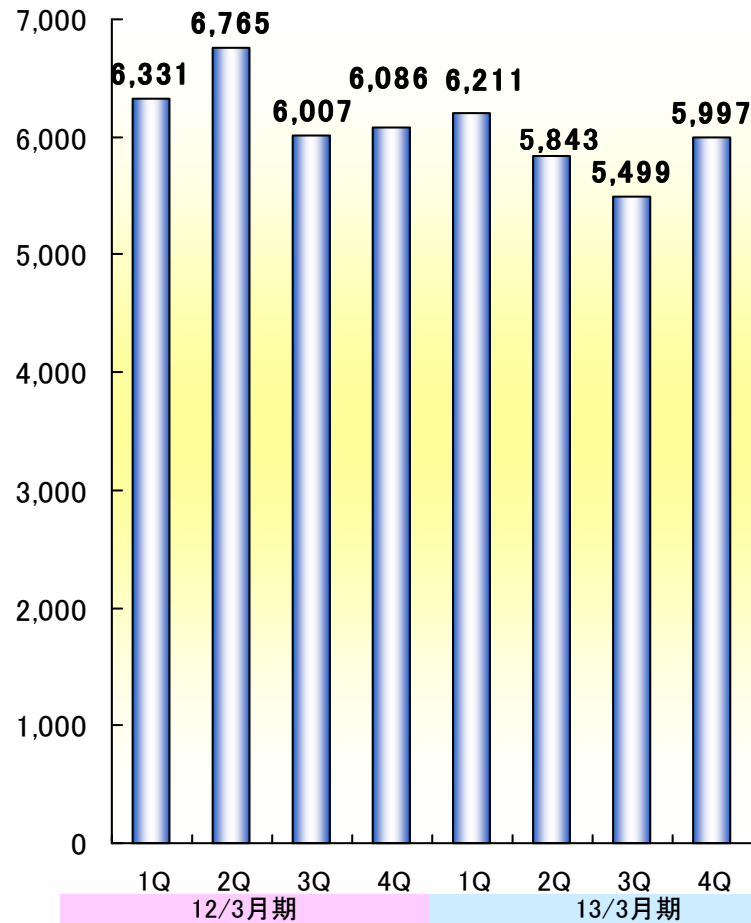
TEL:03 - 3822 - 5865 FAX:03 - 3822 - 5873

URL:<http://www.advanex.co.jp>

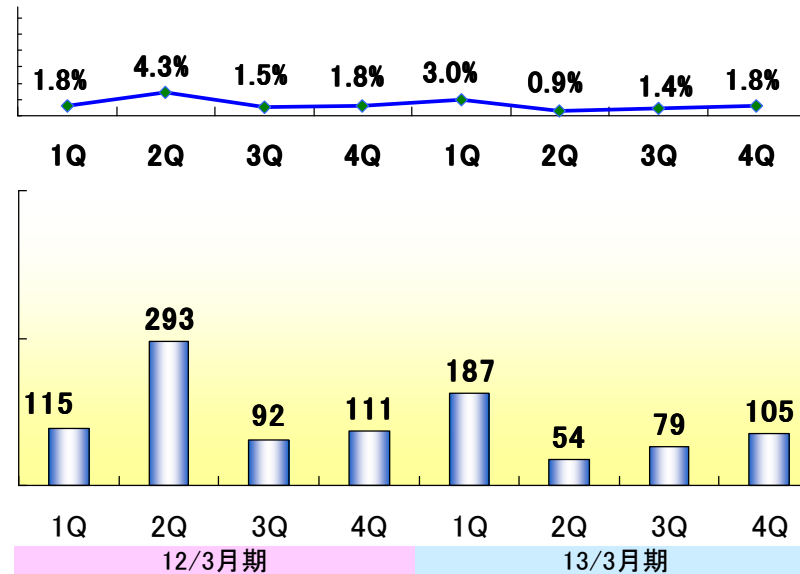
(補足-1) 四半期連結業績推移

売上高

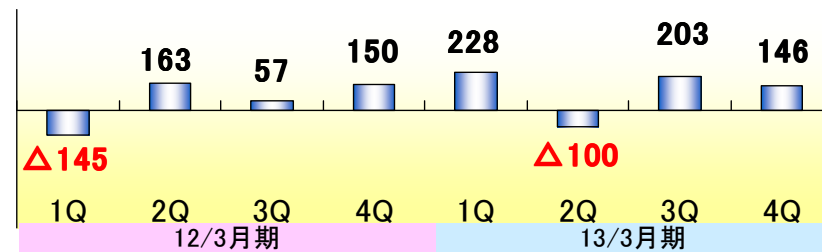
(単位: 百万円)



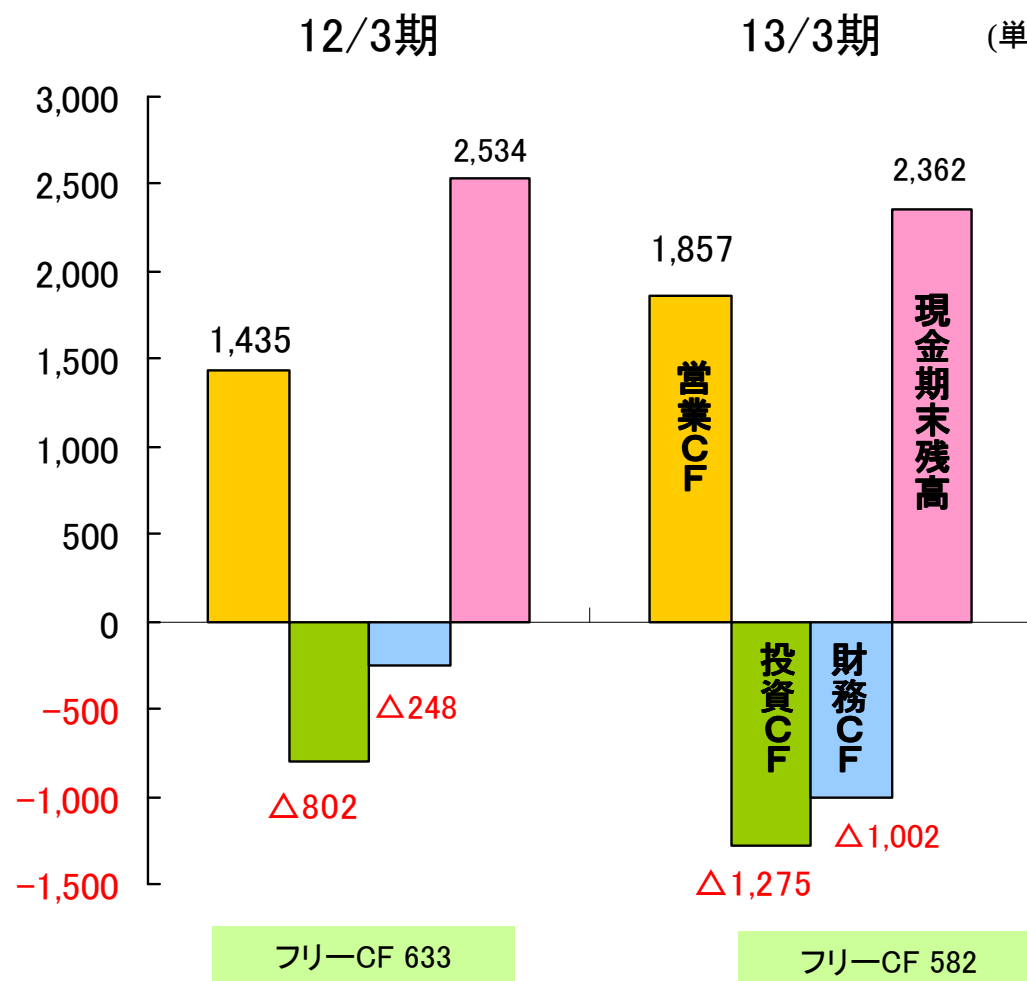
営業利益・利益率



純利益



(補足-2) 連結キャッシュフロー



<13/3期の状況>

営業活動によるCF

利益の計上、減価償却費による資金留保、売上債権の減少等により資金が1,857百万円増加

投資活動によるCF

国内やアジアの生産拠点における設備投資に伴い資金が1,275百万円減少

財務活動によるCF

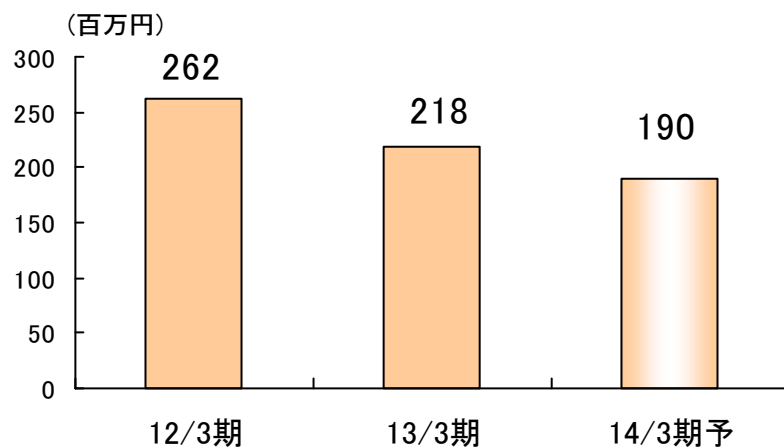
有利子負債の返済により資金が1,002百万円減少

(補足-3) 今期設備投資計画

■前期に比べ、タイ工場の設備投資額が大幅に減少(建物、機械設備)

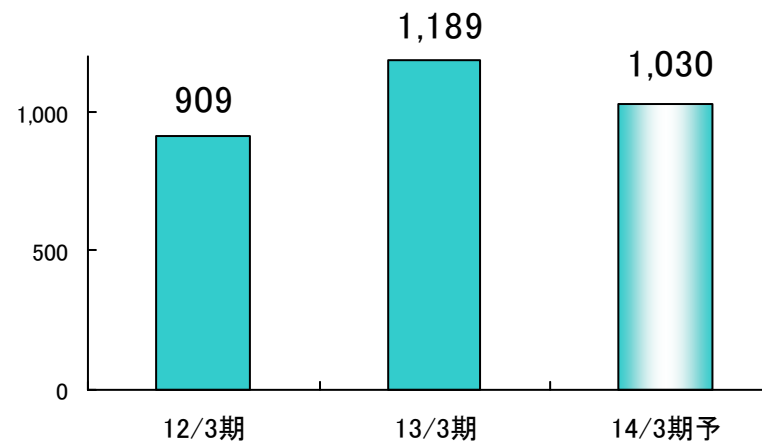
設備投資： 機械装置、試作設備ほか
国内 400百万円 海外 630百万円
研究開発費：プラスチック事業で削減

研究開発費



設備投資

(単位: 百万円)



減価償却費

